

第4期宮城県多文化共生社会推進計画（中間案）に関する意見募集（パブリックコメント）

の結果と御意見・御提言に対する宮城県の考え方

令和6年3月13日

宮城県では、「第4期宮城県多文化共生社会推進計画（中間案）」について、令和5年12月15日から令和6年1月12日の間、ホームページ等を通じ県民のみなさまの御意見等を募集しました。

この結果、1人、2団体から合計8件の貴重な御意見・御提言を頂きました。

頂きました御意見等につきましては、この推進計画策定の参考とさせていただきます。御協力ありがとうございました。

頂きました代表的な御意見等に対する宮城県の考え方につきまして、以下のとおり回答いたします。

箇所	御意見・御提言の内容（要旨）	宮城県の考え方
第4の1	県内では留学生の割合が多いとのことなので、大学等でやさしい日本語講座を実施してはどうか。	第4の1 《具体的な取組内容及び役割分担》（1）を次のように修正しました。 ○日本人県民への効率的な普及啓発を図るため、 <u>教育機関</u> 、 <u>県社会福祉協議会</u> 等の関係団体と連携したセミナー等の開催を通して、多文化共生の理念やさしい日本語の啓発を行います。
第4の2	外国の児童が増えていくことが予想され、それぞれの母国の文化体験をさせる機会が必要だと感じています。県内には英語圏のインターナショナルスクールや朝鮮学校はありますが、それ以外に中華、ベトナムなどの学校も必要になってくると思われま	第4期計画では、各地域の特性を考慮し、市町村国際交流協会等と連携して日本の伝統工芸を含めた文化交流、それぞれの母国の体験事業を充実させていきます。 また、インターナショナルスクールについては、外国人県民のニーズ等を踏まえた対応を検討します。
第4の2	宮城県内の伝統文化が徐々に失われています。白石和紙は無くなり、仙台埋もれ木細工も、昨年事実上消滅しました。外国人の移住やインバウンドに取り組むことも重要ですが、自分たち（日本人）のアイデンティティを失わないための努力も必要です。県内で伝統文化に関わる人への支援や、それを活用した国際交流に積極的になって欲しいと感じています。	
第4の2	外国人が主催するイベントを積極的に開催し、地域の日本人県民に参加いただくことで地域住民同士の理解が促進されるのではないかと。イベント開催経費の補助等できないか。	市町村等と連携して外国人県民ボランティア等の育成を図り、彼らの実施する各種行事への支援を行うとともに、県国際化協会が実施する補助事業等について積極的に周知を行うこととしています。
第4の2	今回の意見募集のように、教師など現場にいる人の声に耳を傾ける機会が増えていくことを期待しています。	第4期計画では、多文化共生施策に関わる関係者と意見交換を実施する場を設け、現場の意見等を基に課題を明確化します。日本語教師に対しても意見を聴取する機会を設け、政策立案に活かしていきます。
第4の2	行政と現場にいる教師の関係が近くなるように、教師向けのワークショップを開催してみてもは如何でしょうか。	
第4の3	生活情報が集約されたアプリやウェブページをリリースし、留学生向けオリエンテーション等で周知してはどうか。	第4の3 《具体的な取組内容及び役割分担》（4）及び第4の5 《具体的な取組内容及び役割分担》（3）を次のように修正しました。 ○在留外国人向けアプリ等の開発により、生活情報の多言語化、セグメント配信や必要な情報のプシ

		<p>ユ型配信等を検討し、外国人県民の利便性向上を図るとともに、<u>教育機関等を含め積極的に周知を行います。</u></p>
第4の4	<p>日本語教師の養成、および仙台市以外での教室の開設について更に積極的になって欲しいと感じています。</p>	<p>第4期計画では、日本語講座のない市町村に対して、日本語講座の立上げ支援を積極的に行っていくこととしています。また、県内で設立が予定されている公立日本語学校を通じて、仙台市以外での日本語学習機会の拡充を図ります。</p>